

第 3 7 期 株 主 懇 談 会

2018年6月28日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

目 次

- I. エスイーグループの概要
および業績について
- II. エスイーグループの今後の戦略



I. エスイーグループの概要 および業績について

SEC 株式会社 エスイー

(平成30年3月31日現在)

- 商号 : 株式会社エスイー
- 創業 : 昭和42年(1967年) 8月
- 設立 : 昭和56年(1981年)12月
- 代表取締役 : 代表取締役会長 森元 峯夫
: 代表取締役社長 大津 哲夫
- 本店所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
- 連結子会社数 : 8社
- 従業員数 : 単体161名 連結490名
- 株主数 : 4,509名
- 上場市場 : 東京証券取引所JASDAQ市場スタンダード
(証券コード 3423)



エスイーグループの事業は、4つのセグメントにより構成されています

建設用資機材の製造・販売事業

- ・ケーブル製品分野
- ・鉄鋼製品分野
- ・コンクリート製品分野



エスイー



A&Kホンシュウ



エスイー鉄建



中川鉄工所

建築用資材の製造・販売事業

- ・建物に用いられる建築用関連製品の製造・販売



A&Kホンシュウ



エスイー鉄建



中川鉄工所

建設コンサルタント事業

- ・国内建設コンサルタント業務および海外での道路、橋梁、建機、水、エネルギー、開発調査等に係るODA市場等での幅広い建設コンサルタントサービスの提供



アンジェロセック

補修・補強工事業

- ・補修・補強工事(橋梁構造物、トンネル等)を中心とした施工および点検・調査業務



エスイーリペア



ランドプラン

エスイーグループ セグメント別売上高・構成比



補修・補強工事業
21億17百万円
構成比 10.5%

**建設用資機材の
製造・販売事業**
86億76百万円
構成比 42.9%

建設コンサルタント事業
6億78百万円
構成比 3.4%

**建築用資材の
製造・販売事業**
87億24百万円
構成比 43.2%

グループ合計
売上 201億97百万円
経常利益 10億51百万円
平成30年3月期実績



セグメント別業績予想(連結)

(単位:百万円)

	平成30年3月期		平成31年3月期計画		
	売上高	構成比	売上高	構成比	増加額(前期比)
	営業利益	利益率	営業利益	利益率	増加率
建設用資機材の製造・販売	8,676	42.9%	9,799	45.6%	1,122 12.9%
	559	6.4%	695	7.1%	136 24.4%
建築用資材の製造・販売	8,724	43.2%	8,851	41.2%	126 1.5%
	426	4.9%	413	4.7%	△13 △3.1%
建設コンサルタント	678	3.4%	850	4.0%	171 25.2%
	45	6.7%	50	5.9%	4 9.2%
補修・補強工事	2,117	10.5%	2,000	9.3%	△117 △5.6%
	255	12.1%	199	10.0%	△55 △21.9%
合 計	20,197	100.0%	21,500	100.0%	1,302 6.5%
	954	4.7%	1,045	4.9%	91 9.6%

各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。



II. エスイーグループの今後の戦略

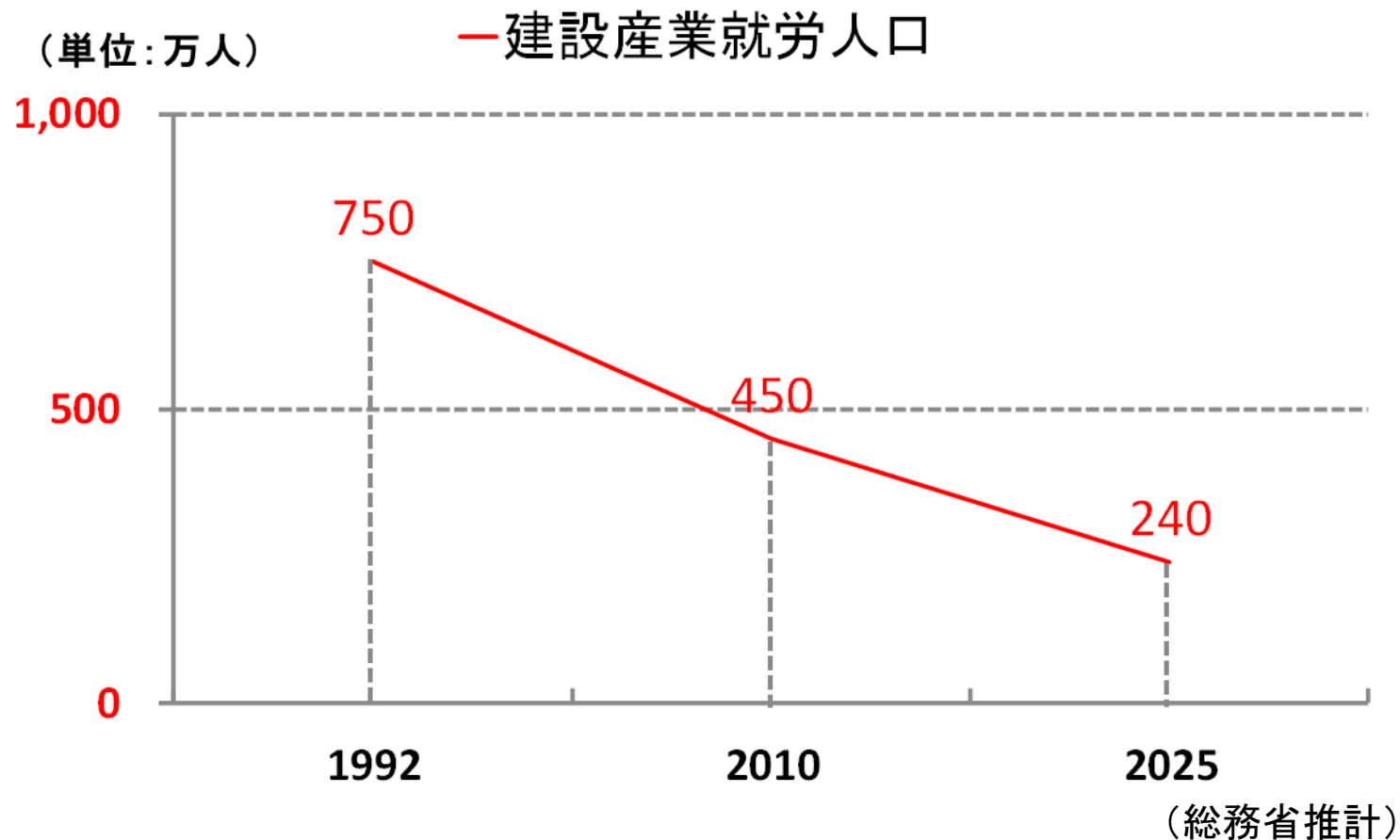
短期（継続）

- ・今年度、公共事業関連予算は、横ばいもしくは微増（工事数量は減少）
- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少（求人は急増）：人材不足、労務費高騰
→建設分野の就労者は、1992年の約750万人から2010年には450万人へ減少
- ・政府建設投資の大幅な減少
- ・2020年東京オリンピックに向けた首都圏の民間建設投資の増加と大都市への集中投資による地方投資の減少（特に東北地方）
- ・インバウンド政策による観光客増加に伴う宿泊施設の建設

中・長期

- ・1970年代に整備された橋梁、トンネル、道路等の更新時期到来：老朽化対策
- ・2020年東京オリンピック後の政府建設投資・民間建設投資の不透明感
- ・三大都市圏における設備投資、リニューアル（ビル・施設・病院などの建替え需要）
- ・国債発行残高の増加：国や地方自治体の財政圧迫（公共事業の縮小傾向）
→平成35年度末公債残高 約1,014兆円 見込み（財務省発表より）
しかし、個人金融資産も900兆円強ある
- ・少子高齢化と労働人口の減少：国内市場の縮小傾向
- ・公共事業関連予算の逡減と社会保障費の増大

●建設産業就労人口の推移



① 緊急性の高い課題への対応：既存事業の安定成長/成長事業の拡大

- ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理・更新
- ・地震や異常気象などに対する、防災・減災対策

② 中長期的な課題への対応：3つの成長戦略

1. 停滞している公共事業への対策

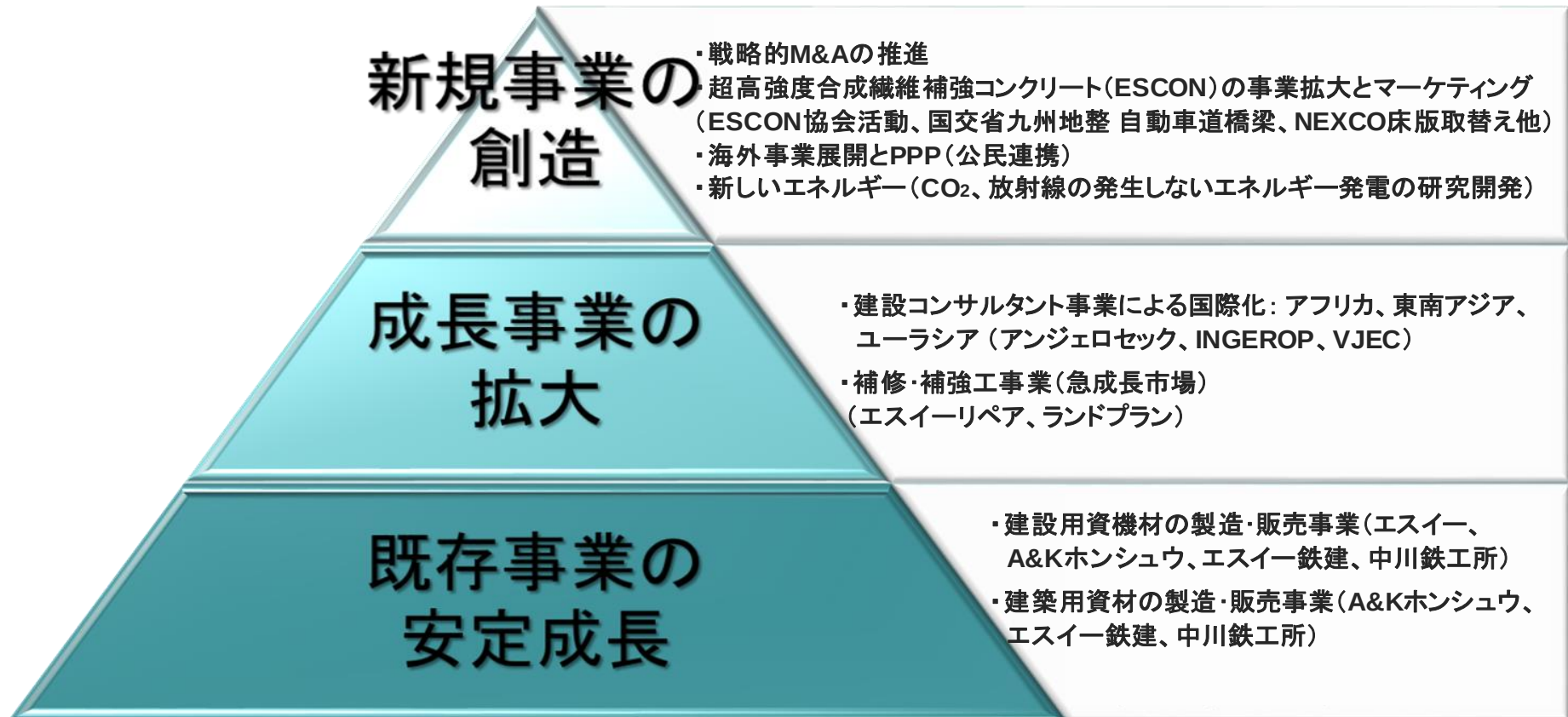
-
- 民間需要の拡大とM&Aによる新規事業
 - ESCONの活用とコンクリート二次製品(A&Kホンシュウ)

2. 社会インフラ長寿命化政策の要請(耐久目標100年)

-
- 省力化、省人化、工期短縮を可能にするESCONコンクリートの必要性
(受圧板、床版他のプレキャスト化の拡充と協会メンバーへの材料販売の促進)
 - 国土交通省九州地方整備局の自動車道橋梁への応用

3. 人口減少(少子高齢化)や地方過疎化による税収の減少と、社会保障費の増大

-
- 海外市場への展開 × PPP(公民連携)の推進



エスイーグループでは、
既存事業の安定成長・成長事業の拡大と
さらなる発展のため、3つの成長戦略に挑戦

既存事業の 安定成長

- ・建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建、中川鉄工所)
- ・建築用資材の製造・販売事業(A&Kホンシュウ、エスイー鉄建、中川鉄工所)

建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- アンカー工法の応用分野拡大 砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ
- 土木分野における耐震金物の受注拡大
- インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得

建築用資材の製造販売・事業(A&Kホンシュウ、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- 首都圏を中心とした民間住宅／非住宅投資の、安定的な建設需要取込
- 東北地区における復興再生需要の取込
- 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事(Mグレード、Hグレード)

成長事業の 拡大

- ・建設コンサルタント事業による国際化：アフリカ、東南アジア、ユーラシア（アンジェロセック、INGEROP、VJEC）
- ・補修・補強工事業（急成長市場）
（エスイーリペア、ランドプラン）

建設コンサルタント事業（アンジェロセック）

- JICA技術協力プロジェクト ⇒ 相手国政府職員の能力向上
- JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- 提案能力／事業推進力の向上による、受注競争力の強化
- 仏アンジェロップ社、ベトナムVJECによる、技術力向上と更なる国際化推進

補修・補強工事業（エスイーリペア、ランドプラン）

- ESCONとエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- 営業力強化、安定顧客層の形成による、受注力の向上
- 施工力の強化と施工品質の向上
- 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

新規事業の創造

- ・戦略的M&Aの推進
- ・超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング(ESCON協会活動、国交省九州地整 自動車道橋梁、NEXCO床版取替え他)
- ・海外事業展開とPPP(公民連携)
- ・新しいエネルギー(CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の研究開発)

戦略的M&Aの推進

- 業際分野におけるM&Aを通じた、経営基盤の強化／事業拡大／スピードアップ

超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング

- 製品化ならびに製品ラインナップの拡充を推進中。ESCON協会33社と共同でマーケティング
- ESCON協会による新分野・新応用技術の開発(土木、建築、一般分野)
- 東北地方を拠点とするA&Kホンシュウとのコラボレーション

海外事業展開とPPP(公民連携)

- 現在展開しているベトナムへの進出日本企業と現地企業との協業化、建設分野の現地化(VJECの分野拡大)
- ベトナムに加え、近隣諸国へとエリアを拡大
- 奈良県広陵町 地方創生プロジェクトへの取り組み



【新規事業の創造】 戦略的M&Aの推進

●エスイーグループにおけるM&A実績

平成21年4月	朝日興業株式会社(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)
平成22年1月	株式会社キョウエイ(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)
平成24年5月	株式会社仲田建設(現・エスイーリペア株式会社)の株式取得(子会社化)
平成26年4月	鉄建工業株式会社(現・エスイー鉄建株式会社)の株式取得(子会社化)
平成27年4月	株式会社森田工産(現・エスイー鉄建株式会社)の株式取得(子会社化)
平成27年12月	株式会社中川鉄工所の株式取得(子会社化)
平成28年7月	エスイー鉄建株式会社による株式会社丸互「鉄骨事業」の事業承継
平成30年1月	株式会社ホンシュウ(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)

今後も業際分野を中心としたM&Aによる事業拡大と経営基盤強化を推進

戦略的M&Aの結果 SECグループの工場配置図



2018年4月
エスイーグループ

Factory and Laboratory of SE Group



●M&Aの今後の戦略

<実績>

- ・ 2009年～2017年 年間 約1件 成立
- ・ 買収した企業の売上予測(平成30年度)

A&Kホンシュウ	今期76億円
エスイー鉄建・中川鉄工所	今期44億円
エスイーリペア	今期20億円(中期25億円目標)

<中期的な目標>

- 1) 今後も積極的な事業拡大を促進
- 2) (株)ホンシュウのような、(株)エスイーの販売力を活用できる案件を優先(ESCONとの相乗効果)

<対象>

現在の4つのセグメントの範囲を中心として、グループ各社の規模の拡大を図る

- 1) 建設用資機材の製造・販売
- 2) 建築用資材の製造・販売
- 3) 補修・補強工事
- 4) 建設コンサルタント
- 5) ESCON事業と相乗効果

<M&A後の運用>

グループ各社を有機的に結合させる

人材交流、規模のメリット、Place Policy(マーケティング戦略)のメリット、技術的シナジー、経営ガバナンスの容易さを追求

【新規事業の創造】

技術開発型企业への取り組み

- ◆ 超高強度合成繊維補強コンクリート「ESCON」の拡販と用途開発
→国土交通省九州地方整備局 高橋(自動車道橋梁)の設計・
施工による建設分野へのインパクト
- ◆ 新エネルギーの開発と発電
(CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の研究開発)
- ◆ 既存製品の新用途開発による市場規模の拡大
- ◆ エスイーグループの技術力を結集し、「新材料」、「新工法」、
「新設計法」の創出と事業化(ESCONの応用分野の拡大)

【ESCONの具体的活動】

- ① 「ESCONスラブ」の開発研究 優秀研究賞受賞
- ② ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート)
事業拡大とマーケティング
- ③ 新しいエネルギー(CO₂、放射線の発生しない
エネルギー発電の研究開発)

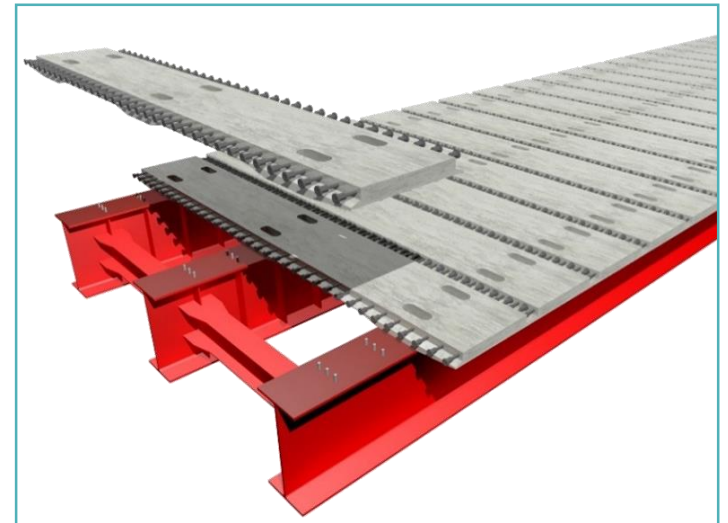
① 「ESCONスラブ」の開発研究 優秀研究賞受賞

平成29年10月18日

「超高強度コンクリートと高強度鉄筋を用いた道路橋床版の開発研究」と題した災害科学研究所との連携研究が、(一財)災害科学研究所 優秀研究賞を受賞いたしました。



災害科学研究所 松井保理事長より記念品の授与



【ESCONスラブのイメージ図】

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● コンクリート構造物の劣化原因

凍害



< RC 橋脚 >



塩害



< PC 桁 >



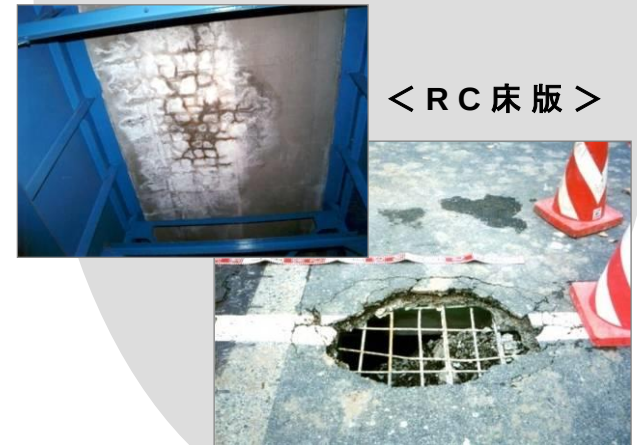
< RC 桁 >



道路橋の経年疲労



< RC 床版 >



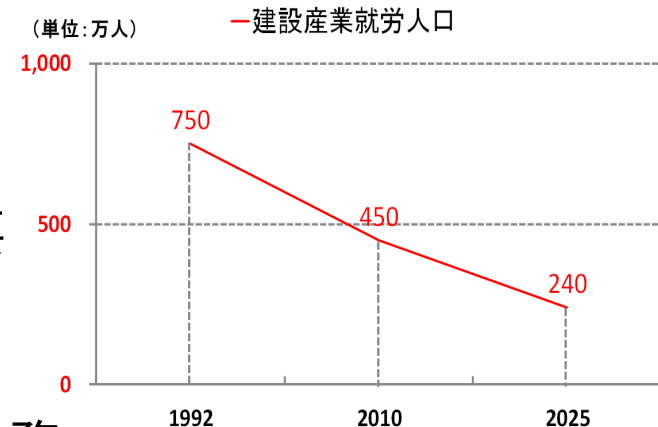
②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●「ESCON」とは

- ・圧縮強度、曲げ引張強度が一般的なコンクリートより高い
- ・鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靱性からひび割れにも強く、コンクリート系構造物の長寿命化が図れる

● 開発の背景

- ・**労務者の人材不足、熟練工の激減:**
現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要
⇒ **省力化、省人化、工期短縮**
- ・南海トラフや首都直下型などの発生リスク:
大規模地震に対する構造物の耐震化対策が急務
⇒ **財政状況の逼迫による耐震化対策費の低減に対応**



- 高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能
- 腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● ESCONの特徴

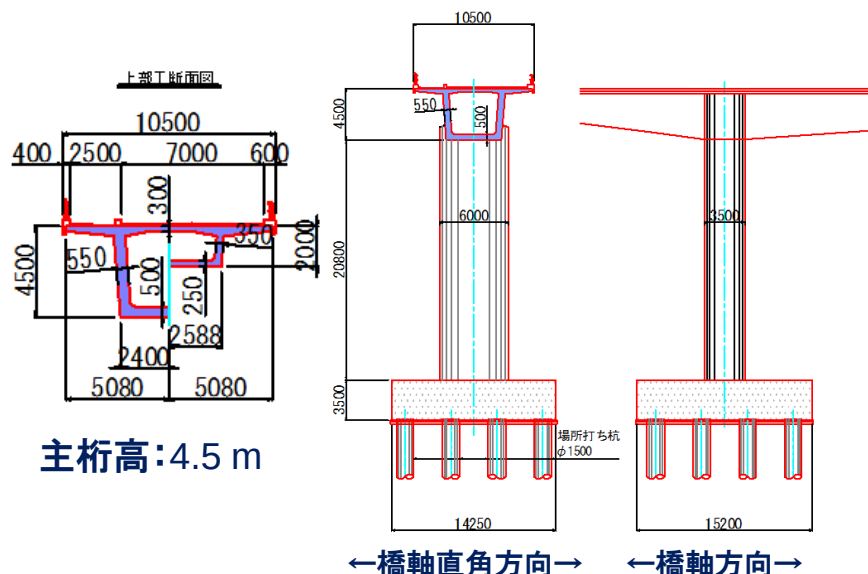
- 圧縮強度が極めて高い: 150N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約4~5倍)
- 曲げ引張強度が極めて高い: 20N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約7~10倍)
- 凍害抵抗性が極めて高い ➡ 寒冷地の構造物への適用に有効
- 塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである
➡ 沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効
- 透水性が極めて低く、ほとんどゼロである ➡ 水理構造物に有効
- 極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである
➡ 二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効
- 流動性が高く、自己充填性を有する ➡ 薄い部材や複雑な形状への適用に有効
- 耐摩耗性・耐衝撃性が高い ➡ 滑走路や水理構造物への適用に有効

上記の特徴を活かし、
『誰でも、いつでも、どこでも簡単に使えるコンクリート』の提供が可能

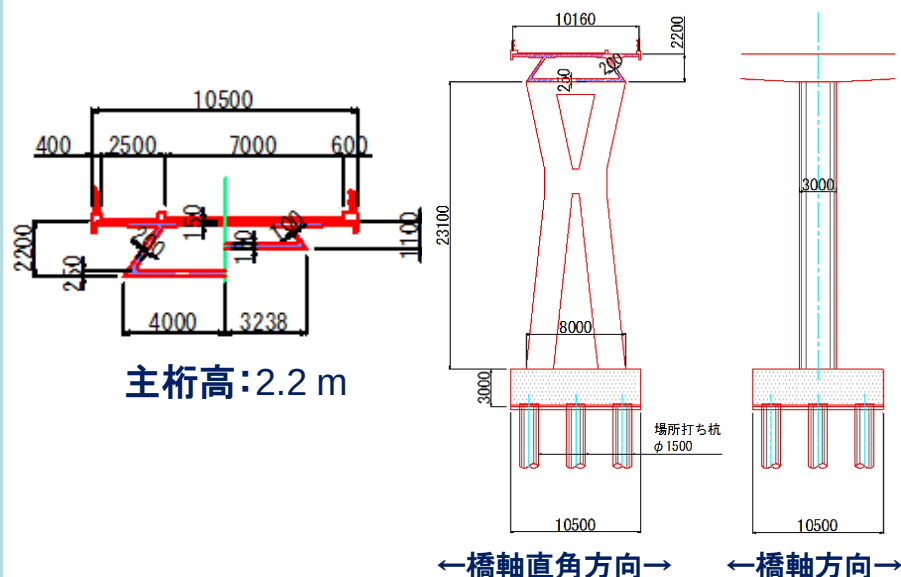
ESCON道路橋の試設計(従来橋との比較)

- 試設計橋梁の諸元
- ・ 橋梁形式: 5径間連続ラーメン変断面箱桁橋
 - ・ 橋 長: 345.0m
 - ・ 支 間 割: 51.3m + 76.0m + 76.0m + 76.0m + 63.9m
 - ・ 幅 員: 10.5m (車道 7.0m , 歩道 2.5m)

【従来の橋梁: プレストレストコンクリート(PC)箱桁】
コンクリートの設計基準強度: 40 N/mm²



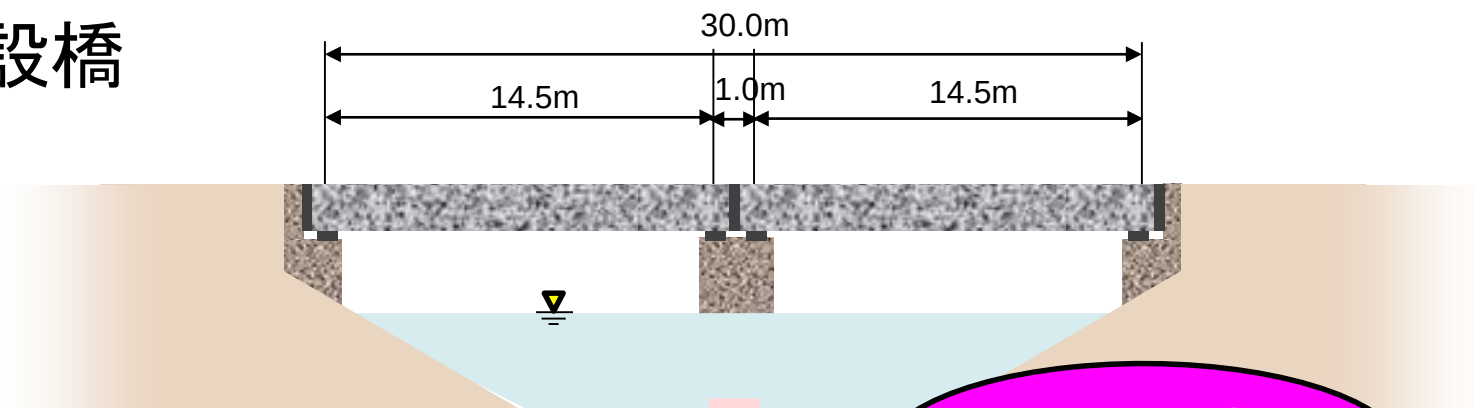
【ESCON仕様橋梁: 内・外ケーブル併用PC箱桁】
コンクリートの設計基準強度: 150 N/mm²



効果 主桁高(橋脚部): 4.5 m ⇒ 2.2 m
主桁のコンクリート体積: 約50%減
上・下部工の工事費: 約20%減

■ 適用例

■ 既設橋

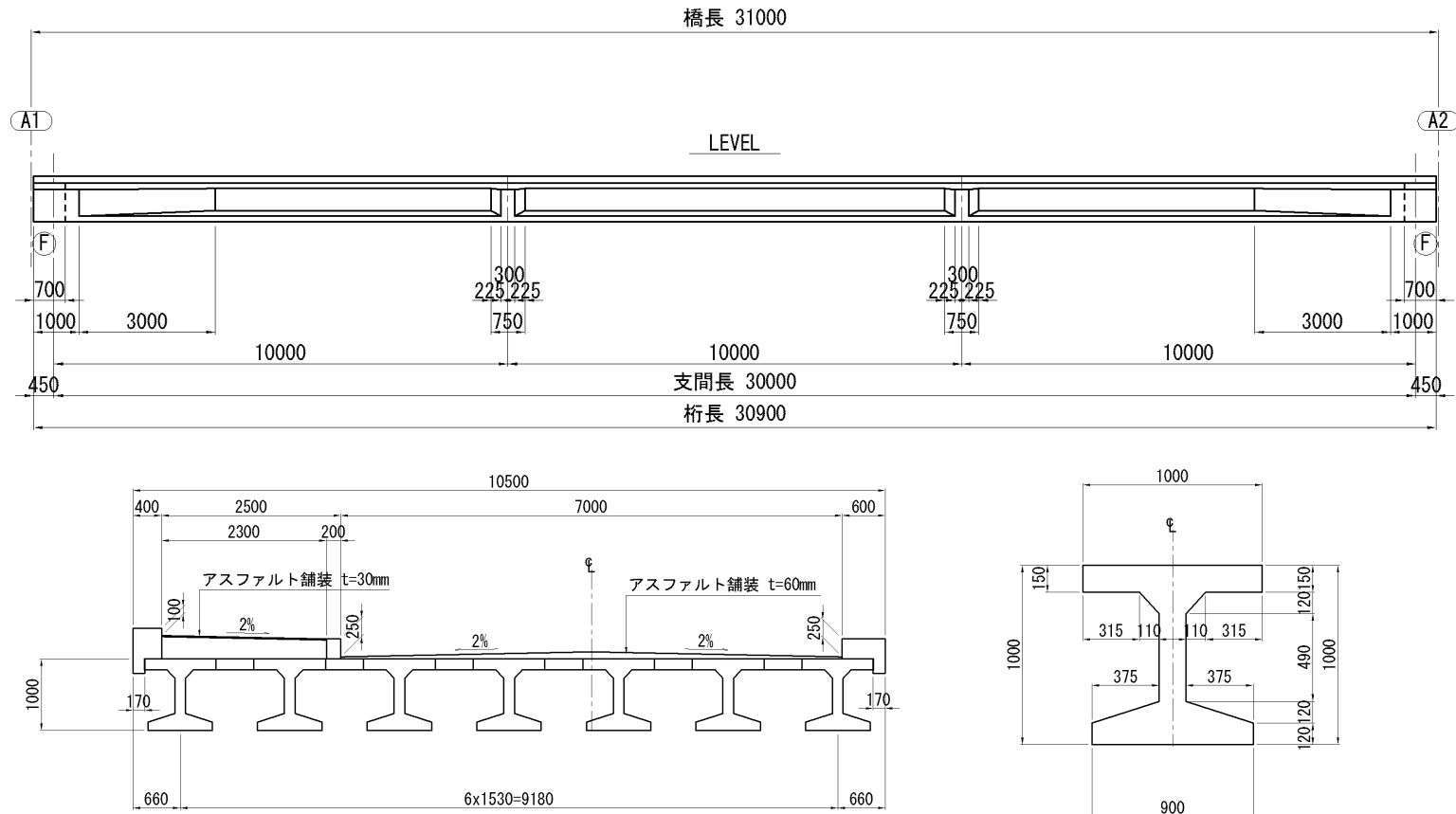


■ 新橋 (ESCON適用)

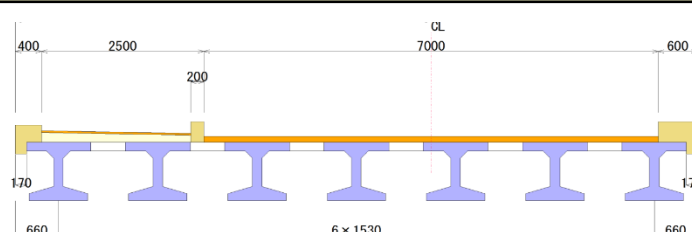
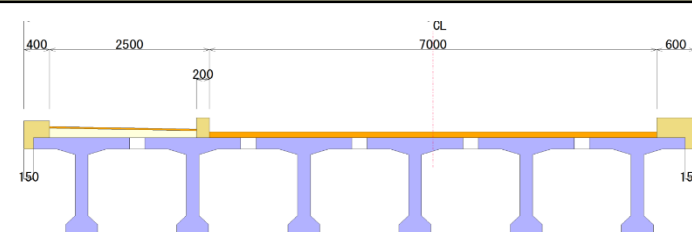


■ 検討結果

■ ESCON-RC単純桁橋(支間長:30m)



■ 現橋のRC橋(2径間)を更新した場合の比較検討結果

	ESCON-RC単純桁橋(支間長30m)		PC単純T桁橋(支間長30m)	
上部工 横断面				
主桁高	1.0m		1.8m	
主桁本数	7本		6本	
主桁断面積	0.426m ² /本	(0.566)	0.752m ² /本	(1.000)
橋体重量 (間詰含む)	2,606 kN	(0.673)	3,874 kN	(1.000)
橋体工費 (直工費)	50,900千円 (174千円/m ²)	(1.154)	44,100千円 (151千円/m ²)	(1.000)
取付道路改良工 (延長80m)	—		15,090千円	
合計	50,900千円	(0.860)	59,190千円	(1.000)

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● ESCON: 製品化ならびに製品ラインナップ拡充を推進

橋梁構造分野



ESCONスラブ
(道路橋用床版)



中・小規模
橋梁への適用



柱部材への
適用

環境防災分野

ESCON保護ブロック(耐磨耗パネル)



ESCON受圧板
(グラウンドアンカー用)



ESCONパネル
(ロックボルト用)



その他分野

ESCONデッキ(覆工板)



ESCONカバープレート
(漁港岸壁アンカー用)

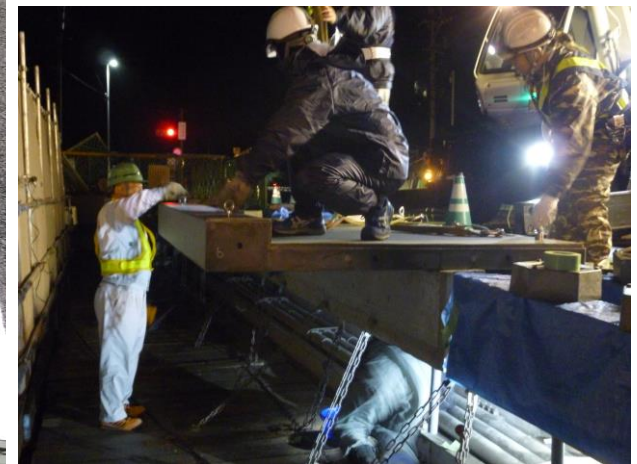
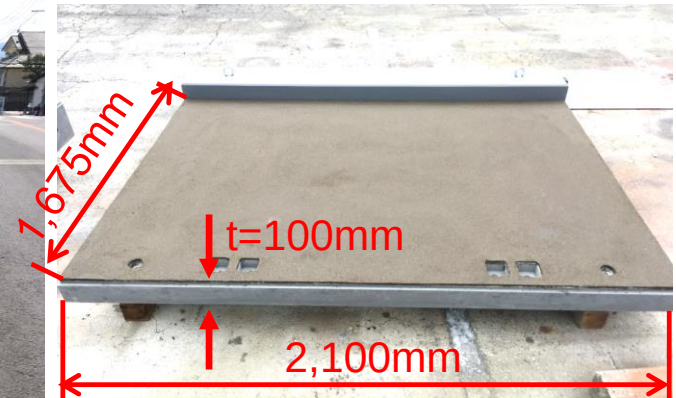


上記の他、海洋構造物や建築分野、放射線遮断容器等、応用分野への用途拡大を検討
→ マーケティング(拡販)と製品ラインナップ拡充を開始

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例1

道路橋歩道部床版(梅崎橋)



②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例2

ESCONパネル(ロックボルト用受圧板)



- ◇石川県金沢市(兼六園法面)
他現場への納入実績
- ◇NETIS登録
No. QS-160021-A



兼六園法面納入状況

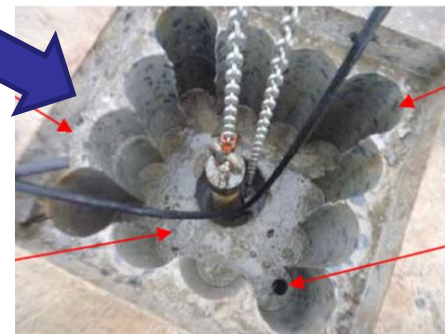
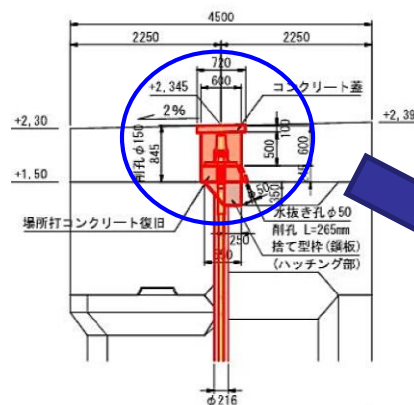


ESCONカバープレート(漁港用)



- ◇強度試験実施済み
(100kN対応)
- ◇茨城県波崎漁港
- ◇2014年度、15年度
2年連続納入実績
- ◇合計 97基納品

◇NETIS登録 申請中



②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例3

ESCON受圧板(グラウンドアンカー用)

【特徴】

従来のコンクリート製受圧板に対して1/2～1/3程度軽量となるアンカー用受圧板。
鋼製受圧板の使用が控えられている地域・発注者をメインターゲットとします。

◇NETIS登録 No. QS-170016-A



ESCON受圧板設置状況(植生機材吹付け後)

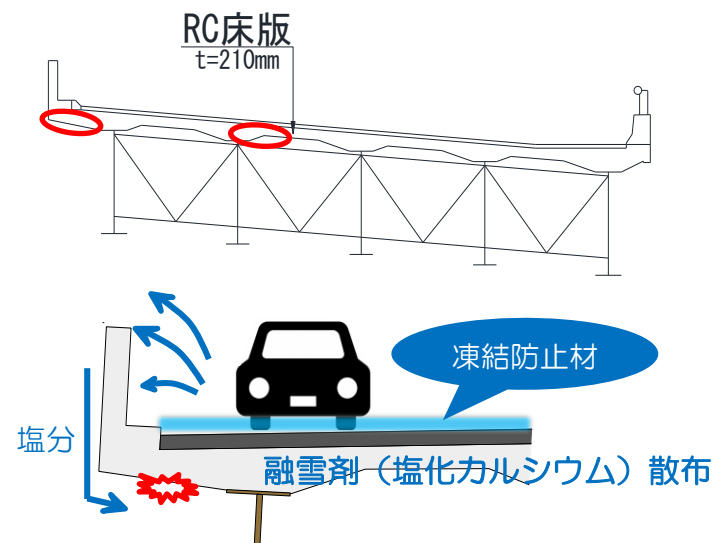
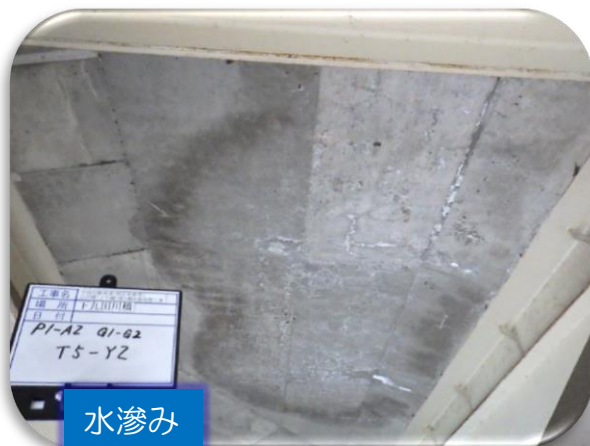


ESCON受圧板設置状況(近接)

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例4

下九田川橋(山口県)【NEXCO西日本】



中国自動車道⇒凍結防止材

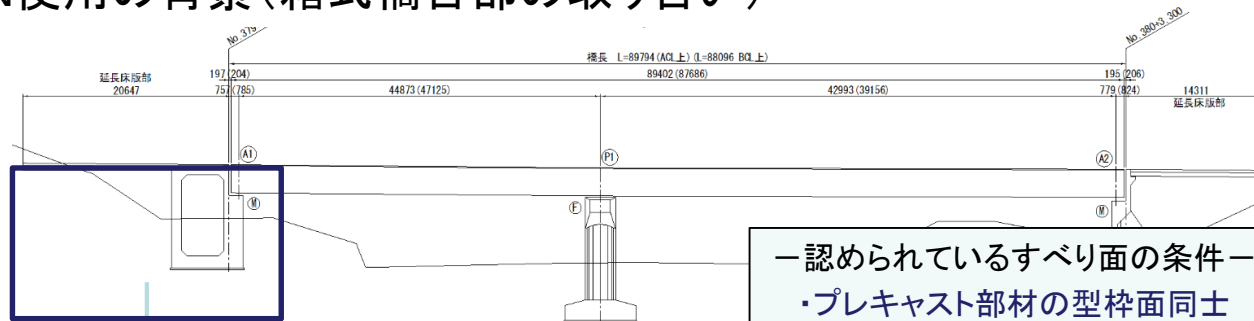
主に凍結防止材の影響による
塩害劣化

※修繕工事が必要となり、ESCON薄肉
プレキャスト板が使用されました

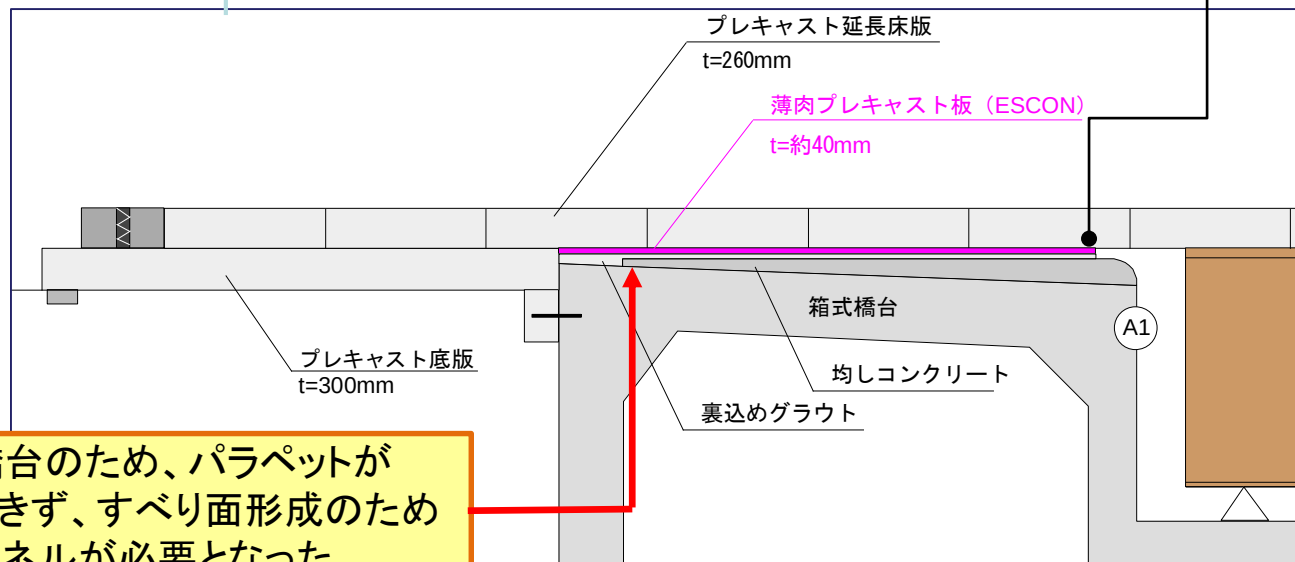
②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

下九田川橋(山口県)【NEXCO西日本】

ESCON使用の背景(箱式橋台部の取り合い)



- 認められているすべり面の条件—
- ・プレキャスト部材の型枠面同士
- ・亜鉛メッキ帯鋼板を用いた構造

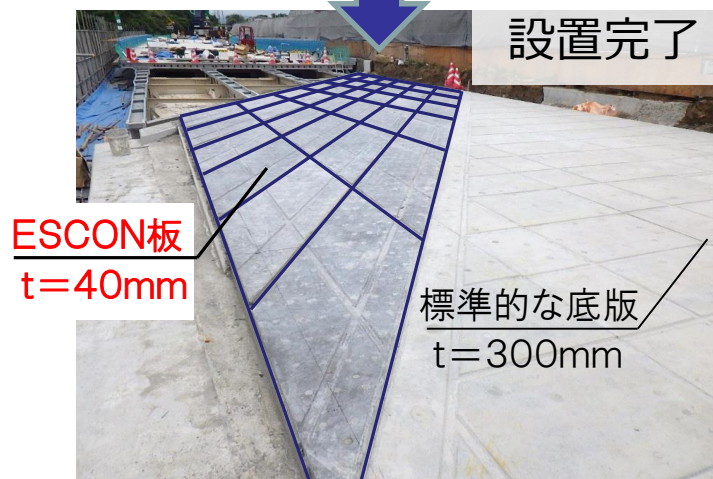
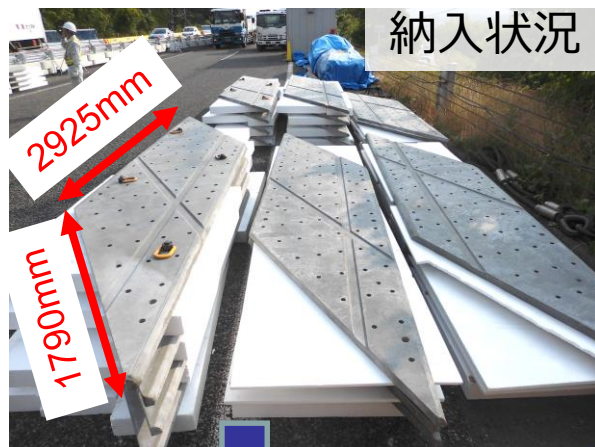


BOX橋台のため、パラペットが
切断できず、すべり面形成のため
薄型パネルが必要となった

② ESCON (超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

下九田川橋(山口県)【NEXCO西日本】

納入・設置状況



主なESCONターゲット市場（初期5～6年）

	種別	延長事業費	年間	ESCON材料	備考
NEXCO 高速道路更新	床版大規模更新	224km 16,429億円	200億円/年 100億円(材料)	40億円	市場の40%
首都高速道路 阪神高速道路	更新、修繕	6,300億円 3,700億円			後年市場化
中堅ゼネコン	トンネル、セグメント 建物、道路構造物				後年市場化
PC業界	ポステン(現場) プレテン(工場)	1,600億円/年 700億円/年	市場の10%	30億円	
プレキャスト 二次製品	市場規模 (代表2社)	600億円	市場の10%	25億円	
自社製品	プレキャスト、セグメント(受圧板、覆工板、鋼橋用床版他)			5億円	
合計				100億円	ESCON 50,000m ³ 相当

※首都高速道路、阪神高速道路は後年引き続いて市場開拓する。

- ・学識経験者、国土交通省、ESCON協会を交えて「検証委員会」を発足させ、実用化に向けて審議中

<委員会名>

超高強度合成繊維コンクリートの実用可能性に向けた検証委員会

<座長>

九州大学 園田佳巨教授

<場所>

国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所
国道208号線(福岡県柳川市)

<内容>

自動車道 橋梁(高橋)
1935年施工。老朽化した橋梁の架け替え

<現状>

- 1) 概略設計中
- 2) 今年詳細設計、その後工事着工予定

●ESCON γ Nite[®] (ガンマ線遮蔽材料)を開発中

◇ γ Nite (ガンマナイト)とは (特許出願中 公開情報)

γ Niteは、ガンマ線を遮蔽する厚さ8cmのESCONを用いた合成コンクリート材です。ガンマ線の遮蔽材料として代表的な鉛は高い遮蔽能力を有しますが、価格が高く、使用する上では、環境汚染や鉛中毒などの深刻な健康被害に留意する必要があります。また、鉄は鉛に次いで遮蔽能力が高いですが、腐食に対する懸念があります。ESCON γ Niteは、鉄に近い遮蔽能力を有し、耐久性の高い超高強度合成繊維補強コンクリートを使用しており遮蔽能力、耐久性、価格等のバランスが取れた優れた遮蔽材料といえます。

◇ESCON γ Niteの応用例

ESCON γ Nite BOX (放射性廃棄物保管容器)

γ Niteを用いた放射性遮蔽容器 γ Nite BOXは、普通コンクリート製の容器と比べ、その厚みを薄くすることができます。

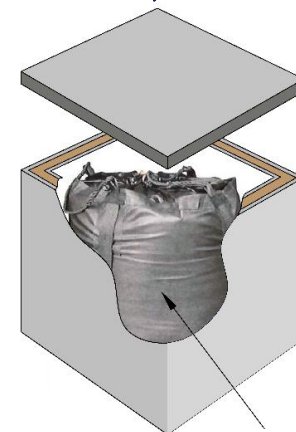
γ Nite BOXは、ESCONを使用しているため、水に対する耐浸透性や耐凍結融解性、耐薬品性に優れ廃棄物の長期保存に適します。

ESCON γ Nite BOX 放射能汚染物質の貯蔵に最適

廃炉になった原子力発電所から発生する放射能汚染物質を長期間安全に貯蔵できます。

放射能汚染物質の中間貯蔵箱

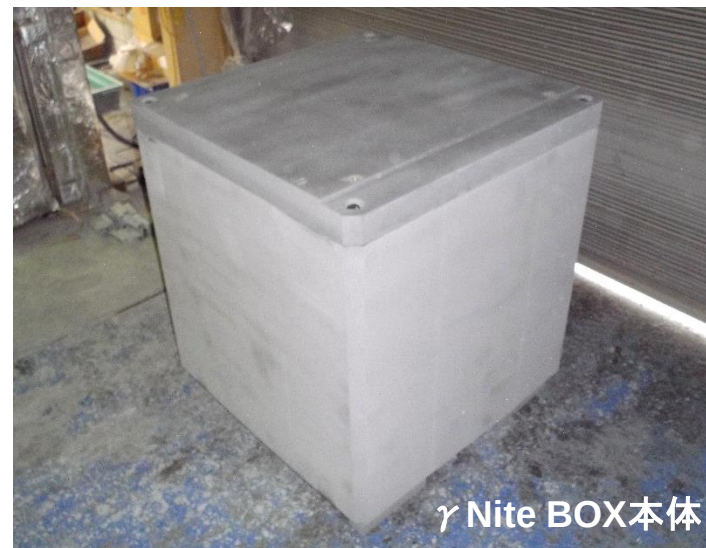
ESCON γ Nite BOX



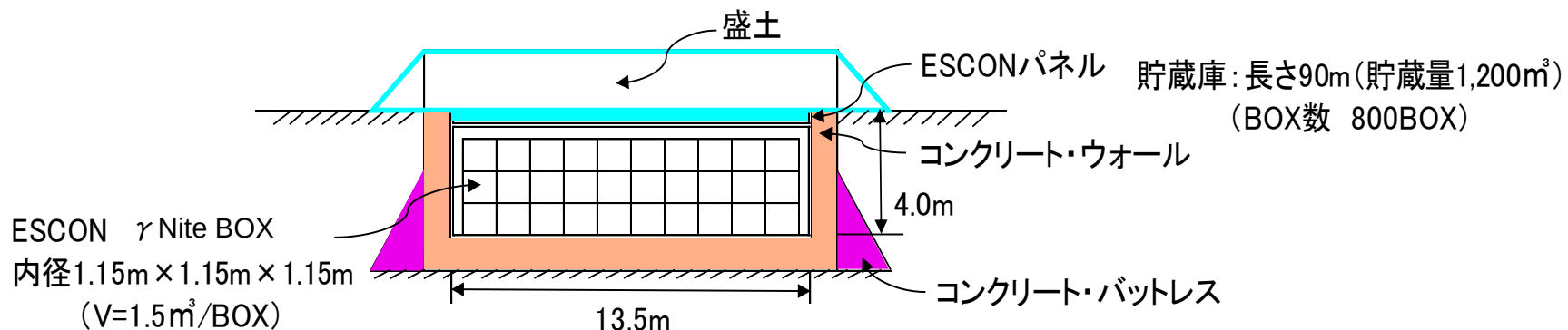
フレコンバッグ

ESCON γ Nite (特許権取得、原子力発電所廃炉と放射能汚染物質への対応)

～ESCON γ Nite BOX の試供品～



～ESCON γ Nite BOXによる放射性廃棄物の貯蔵イメージ図～





【新規事業の創造】 海外事業展開

●アンジェロセックの新たな事業展開

アンジェロセックは、アフリカ、アジアを中心に積極的な海外事業を展開しています。
JICAや相手国政府からの受注物件の確保ならびに継続物件の消化活動を行っています。

＜昨年度 完工したプロジェクト＞

「東ティモール国 道路維持管理水準向上プロジェクト」

「コンゴ民主共和国 道路維持管理能力強化技術協力プロジェクト」

「パプアニューギニア国 道路整備能力強化プロジェクト」等



東ティモール コモロ橋建設計画
(JICA無償資金協力)



コンゴ 道路維持管理能力強化技術協力
プロジェクト(JICA無償資金協力)

●海外事業展開(ベトナム)への積極的な取り組み

- 2007年 ベトナムでの事業展開を目的として、ベトナム国立建設大学(NUCE) 附属機関と(有)日越建設コンサルタント(VJEC)設立
- 2010年 ベトナムにおける大規模国策事業であるハノイ-ハイフォン間高速道路 (全長105キロ)施工監理業務を受注
- 2012年 ハイフォン-ハロン間バックダン橋(日越友好の橋)プロジェクトを PPP(公民連携)にてベトナム・クアンニン省に提案、その事業化を推進
- 2014年 JICA(独立行政法人国際協力機構)より「ベトナム国 技術普及案件化 調査案件」を受注



2015年
ハノイ-ハイフォン間高速道路
クロージング・セレモニーの様様

2015年 バックダン橋(日越友好の橋)プロジェクト投資許可受領。事業開始

2016年 JICAより「ベトナム国道路法面对策技術の普及実証事業
(グラウンドアンカー工法)」に採択。現在調査実施中

2017年10月21日 VJEC (Vietnam Japan Engineering Consultants)
設立10周年記念式典を開催



2018年4月28日 バックダン橋(日越友好の橋) 閉合式開催



2018年9月2日 バックダン橋(日越友好の橋) 開通式開催 <予定>

ナイル架橋建設工事プロジェクト

- 日本政府の円借款(有償資金協力)によるウガンダ共和国
ジンジャ県における「ナイル架橋建設工事」への斜材ケーブル業務を受注
資材供給、スーパーバイザー派遣、機材リースを通じて当社の技術を総合的に提供

発注者	ウガンダ国家道路公社 Uganda National Roads Authority
工事名称	ナイル架橋建設事業(ジンジャ) Construction of a New Bridge Across River Nile at Jinja
所在地	ウガンダ共和国ジンジャ県
工期(予定)	2014年1月～2018年6月(約4年半)
設計監理	株式会社オリエンタルコンサルタンツ・株式会社エイト日本 技術開発・PEC JV
施工	銭高組・現代建設JV
売上	約5億円



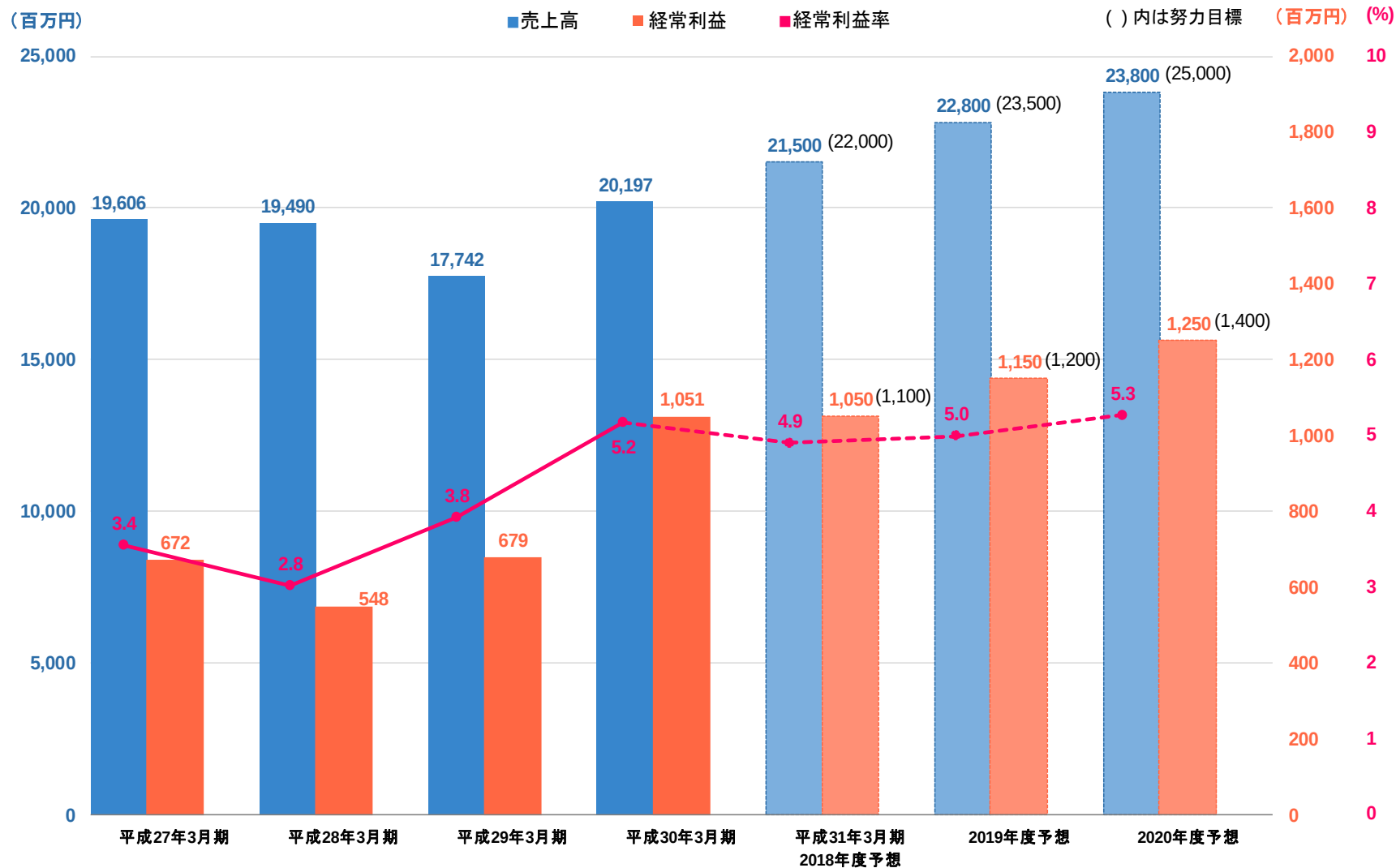
ナイル架橋



エスイーグループ売上／利益目標

エスイーグループ売上／利益目標

●中期300億円化戦略



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー